

八功德水の儀に臨んだ青龍



清水寺青龍会20周年



仁王門前を行道する青龍会

令和元年 第百四回うらぼん法話



うらぼん法話開白法要



檜皮を持って話す坂井輝久氏



森貫主（中央奥）も立ち合って行われた本堂鬼瓦上げ



本堂の大屋根にすえつけられた鬼瓦

仏縁を重ねて心を清める

清水寺貫主 森清範

今年もまた暑い夏でありましたが、皆さま、いかがお過ごしでしたでしょうか。

この夏、六月中旬から七月上旬までの一カ月ほどの間に、新潟、山形、岩手、会津、東京、八戸と法話に参りました。もう行ったり来たり目まぐるしいことでありました。だいたい京都より東の方が多いのですが、これも清水寺の大本願であります坂上田村麻呂公のご縁であります。大概、京都駅から新幹線で東京駅に向かい、それからまた二時間、三時間と新幹線を乗り継いで行くのであります。

山形の講演会は内外情勢調査会山形支部というところからの依頼でした。何や、いかめしい名前で、ちょっと気になりましたので、寺務所で調べてもらいました。なんでも時事通信社という情報機関の関連団体なのだそうですので、企業の社長さんとか団体

のトップとかが会員になって著名人の講演を聞いて昼食会を開いたりしているのです。そういえば以前に東京の本部の懇談会に招かれて法話したことがあったなあと思ひ出しました。だいたい政治家が講師になるのが多いのだそうで、前回は蓮舂さんだったと聞きました。会場は東京の帝国ホテルでしたが、昼



森清範貫主

食のとき隣の席は当時の森喜朗首相でした。食事しながら「森、森ですな」と盛り上がりました。その山形には仙台駅で降り、迎えの車に乗り一時間ほどで到着しました。高速道路が整備されているのです。

八戸は市制施行九十周年を記念して地元の仏教会などが東日本大震災犠牲者の追善と復興祈願の法要を開き、併せて日本漢字能力検定協会より「今年の漢字」の書を借り出して一字展と講話会を開いたのです。青森まではさすがに遠いですね。

泥に染まらない蓮の花

八戸に参りまして、そこに清水寺があるのですが、久しぶりに和尚さんにお会いしました。先代の和尚さんは全国清水寺ネットワーク会議が四月三日に営んでおります「水の日」讃仰法要によくお越しでした。代が替わってからはあまりお見えではないのですが、和尚さんと挨拶あいさつをしておりましたら、蓮の花の話になりました。境内に古代の蓮であります「大賀ハス」を植えようとしたましたが育たなかったそうです。水がきれい過ぎると、だめなのです。ある程

度、泥池でない蓮は育っていかないそうです。

蓮華れんげは仏教の花として使われていることは、皆さん、よくご存じだと思います。泥の中に生えてきて、泥に汚れることなく清浄な花を咲かせます。煩惱ぼんのうから脱ぬけ出して、さながら涅槃ねはんの清浄な境地を表しているというわけです。極楽浄土では七宝の浴池があって、そこに美しい蓮の花がいっぱい咲いている姿が描かれております。泥の中に生えて、泥に染まらないところ 중요합니다。

泥池で思い出したのですが、成就院の庭園の池はわれわれ小僧の時は蓮池でした。夏になりますと蓮の花がよく咲いておりました。ところがザリガニがレンコンを食べるので、とうとう蓮がなくなってしまうました。蓮がよく咲いていたころ、咲くときに音がするという話を聞きました。石川啄木の詩にこんながあります。

静けき朝に音たてて白き蓮はくすの花咲きぬ

それから正岡子規の俳句にも出てきます。

蓮開く音聞く人か朝まだき

それで何かポンという音がするのではないかと思っ